2026年11月20日

報道関係各位

株式会社JPF

「熱量を潰さない組織」は、どうつくられるのか
人材育成の専門家・坂井風太氏とJPFの対談動画を公開

～経営層と次世代、それぞれの視点から語るJPFの組織文化と人材育成～

株式会社JPF（本社：東京都千代田区、代表取締役：渡辺俊太郎、以下「JPF」）は、人材育成・マネジメントを専門とする株式会社Momentor代表・坂井風太氏との対談動画を公開しました。
【対談動画URL：https://youtu.be/VJ7jCYBTqPM】

対談には、JPFから代表取締役・渡辺俊太郎、常務取締役・黒江祐平、執行役員・吉田祐介、次世代を担う社員として東京2020大会自転車競技日本代表・中村妃智が参加。JPFの人材育成をはじめ、社員一人ひとりの挑戦を支える組織文化、スポーツと地域に向き合う事業への思いについて、それぞれの立場から語りました。



対談参加者（左から）：JPF代表取締役 渡辺俊太郎・株式会社Momentor代表取締役 坂井風太氏
JPF常務取締役 黒江祐平・JPF執行役員 吉田祐介・JPF 中村妃智

JPFでは、人材育成の一環として、坂井氏による人材育成・マネジメント研修を管理職層と次期リーダー層を対象に実施。今回の対談では、その研修を通じて得られた気づきや変化も振り返りながら、坂井氏がJPFに感じた「社員の熱量が潰されずにいられる組織」が、どのように生まれているのかを掘り下げました。

JPF Jump for Positive Future

2021 Copyright © JPF Co., Ltd. All Rights Reserved.

【管理職と次期リーダー、双方で人材育成に取り組む】

JPFが坂井氏による研修を導入した背景には、今後の組織を担う管理職・次期リーダー層をどのように育成していくかという課題がありました。

黒江は、人材育成が「自分たちはこうだったから」という個人の成功体験に依存しやすく、組織として共有できる育成手法が十分に確立されていなかったと振り返ります。

そこで、現在組織を率いる管理職層と次期リーダー層の双方が研修を受講。管理職が新たなマネジメントの考え方を学ぶとともに、次世代も早い段階から同じ考え方に触れることで、組織全体で人材育成に関する共通認識を持つことを目指しました。

管理職として研修を受講した吉田は、「説明がつかなかった経験が言葉に整理された感覚がある」と改めて気づきを得る機会になったと振り返ります。一方、次期リーダー層として研修を受講した中村は、「仕事の中で感じていた疑問に理由がつき、今後どう行動すべきかという道筋が見えた」と語りました。



人材育成・マネジメント研修の導入背景について語る坂井氏（左）と黒江（右）

【坂井氏が感じた「取り繕わない」JPFの組織文化】

研修を通じて坂井氏が特に印象的だったと語ったのが、JPFの参加者が「自分は何を大切にして仕事をしているのか」を自分自身の言葉で語る姿でした。

研修では、自身が大切にする価値観や仕事上の癖、実践したことなどを発表しました。その中でもJPFの参加者は、「なぜこの仕事をしているのか」「この事業にはどのような意味があるのか」といった価値観について語る時間が特に長かったといいます。

その背景について黒江は、「会社だからこう振る舞う」と取り繕うのではなく、良いところも悪いところも含めて素の自分で接する文化があるのではないかと話します。

吉田も、年齢や役職にかかわらず意見を伝えやすく、自ら考え、主体的に発信できる環境がJPFにはあると感じていると語りました。

JPF
Jump for Positive Future

2021 Copyright © JPF Co., Ltd. All Rights Reserved.

【「失敗をビビったら、なにもできない」挑戦を後押しする経営】

対談では、代表取締役の渡辺がJPFの組織づくりについて語りました。

渡辺が社員の魅力として挙げたのは、チームで物事を進め、自分の意見を持ち、任されたことに挑戦しようとする姿勢です。

「失敗をビビったら、なにもできないじゃないですか。ビビらずにやってくれるのが嬉しい。」

社員から生まれた提案についても、明らかな問題がない限り、まず「やってみな」と任せる。坂井氏は、こうした「自分たちが必ずしも正しいとは限らない」という経営層の姿勢が、社員の意見や挑戦を生み出す文化につながっているのではないかと分析しました。

また、渡辺は経営における軸として、自社だけではなく、業界や地域そのものが良くなる視点で事業を考えることを挙げました。

公営競技場の運営を起点に、スポーツ振興や地域振興へと事業を広げてきたJPF。その事業の根底にも、地域や業界とともに発展していこうとする考えがあります。



JPFの組織文化や社員の挑戦について語る坂井氏（左）と渡辺（右）

【一人ひとりの「熱量」を、チームの力へ】

JPFには、自転車競技への思い、地域振興への関心など、さまざまな経験や価値観を持つ社員が集まっています。

坂井氏は研修と対談を通じ、そうした社員それぞれの「熱量」が互いに否定されることなく、組織の中で伝播していることに着目しました。

今後の人材育成について吉田は、若手・次世代には自ら考え、主体的に発信する力が求められ

JPF Jump for Positive Future

2021 Copyright © JPF Co., Ltd. All Rights Reserved.

る一方、管理職には、熱量を持つ多様なメンバーをまとめ、それぞれの能力を掛け合わせて相乗効果を生み出す力が必要だと話します。

対談の最後に坂井氏は、JPFについて、経営層が「自分たちが必ずしも正しいとは限らない」という姿勢を持つことで、社員一人ひとりの「熱量が潰されずにいられる会社」なのではないかと振り返りました。

動画ではこのほかにも、公営競技と地域との関係、スポーツを通じた地域振興、自転車競技の魅力、JPFで活躍する人材像などについて語っています。

JPFは、どのように人を育て、一人ひとりの熱量をチームの力へ変えようとしているのか。ぜひ、対談動画本編をご覧ください。

【対談動画概要】

出演

株式会社Momentor 代表取締役	坂井風太氏
株式会社JPF 代表取締役	渡辺俊太郎
株式会社JPF 常務取締役	黒江祐平
株式会社JPF 執行役員	吉田祐介
株式会社JPF	中村妃智

(・東京2020オリンピック競技大会自転車競技 女子マディソン出場)
(・2021年ネイションズカップ女子マディソン優勝)

動画:JPF公式channel(YouTube):https://youtu.be/VJ7jCYBTqPM

【株式会社JPFについて】

1950年、競輪やボートレースなどの公営競技におけるゴール着順判定用スリットカメラを発明。以来、多くの公営競技場において判定業務を支えてきました。2010年からは公営競技場のトータルマネジメント事業を開始し、全国各地で運営支援を展開しています。「人の成長機会を提供できる企業であり続けること」を理念に、地域活性化やサイクルスポーツ振興など、多様な取り組みを推進しています。

【メディアキット】

キット内の素材は本プレスリリースを掲載していただく場合のみ使用可能です。

https://drive.google.com/drive/folders/1XqRuIgOaoS1O-tY0hyTFWjgE8PEnXXCJ?usp=sharing

---

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社JPF 広報室
電話番号:03-6697-7166
お問い合わせフォーム:https://www.jpf.co.jp/contact/press/

JPF Jump for Positive Future
2021 Copyright © JPF Co., Ltd. All Rights Reserved.